

金沢21世紀美術館 「自治区」04
 岡田利規＋ウティット・ヘーナムーン 対談
 「国民国家と芸術ータイについて考える」



シリーズ「自治区」第4弾は、6月21日(水)に金沢21世紀美術館プロジェクト工房で開催する、「自治区04 岡田利規＋ウティット・ヘーナムーン対談「国民国家と芸術ータイについて考える」」です。

2000年代の新しい演劇を代表するカンパニー「チェルフィッチュ」を主宰する演劇作家・岡田利規と、タイのポストモダン小説の旗手・ウティット・ヘーナムーンが、新たに始動させる国際協同プロジェクトに関連して、公開対談を行います。作家の視点から浮かび上がってくるタイの社会やそこに生きる個々人の内面を通して、国民国家と芸術の関係、個人のアイデンティティの問題など、様々な既成の「境界」がゆらいでいるアジアの現在を、日本・タイ気鋭の作家2人と共に考える機会とします。

貴メディアにてご取材・事前告知をお願い申し上げます。

「自治区」について

今年度、金沢21世紀美術館が立ち上げた自主自由自律自治をコンセプトにした活動区の総称。美術に限らず科学、歴史、社会学など、学際的に他の領域を横断しつつ、年間を通してライブ、映像上映、トーク・シリーズ、滞在制作、身体表現など多様なプログラムを継続的に実施。「自治」をキーワードに、外部コミュニティとの連携・協働を通じて、これまでの美術の領域を超えるべく実験的なアクティビティを展開するものです。公式サイト <http://jichiku.com>

イベント名	自治区04 岡田利規 + ウティット・ヘーナムーン 対談「国民国家と芸術ータイについて考える」		
日時	2017年6月21日(水) 18:30~20:30 (開場18:00)		
会場	金沢21世紀美術館 プロジェクト工房		
料金	1,000円(タイ料理軽食ドリンク付)	定員	50名(自治区公式サイトjichiku.comにて予約受付中)
出演	岡田利規(演劇作家/小説家/チェルフィッチュ主宰) ウティット・ヘーナムーン(小説家) ※逐次通訳付(タイ語ー日本語)		
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]		
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL 076-220-2801(学芸課 高橋)		

プロフィール

岡田利規 OKADA Toshiki

1973年横浜生まれ、熊本在住。演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。同年7月『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005 一次代を担う振付家の発掘」最終選考会に出場。07年デビュー小説集『わたしちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表し、翌年第二回大江健三郎賞受賞。12年より、岸田國士戯曲賞の審査員を務める。13年には初の演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』、14年には戯曲集『現在地』を河出書房新社より刊行。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピール（ドイツ）のレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務める。



Photo : Kikuko Usuyama

ウティット・ヘームムーン Uthis HAEMAMOOL

1975年タイ中部サラブリー県ケンコーイ生まれ。バンコクのシラパコーン芸術大学絵画彫刻版画学部を卒業。2009年に発表した3作目の長編小説『ラップレー、ケンコーイ』（The Brotherhood of Kaeng Khoi）にて作家としての地位を確立し、同年の東南アジア文学賞とセブン・ブック・アワードを受賞。さらに CNNGo にて、タイで最も重要な人物の一人として掲載された。2013年には京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA で実施されたアーティストワークショップ「Work in Memory」に、映画監督のアピチャップン・ウィーラセタクンとともに招聘講師として参加。同ワークショップに参加した日本のアーティスト6名との交流を通じて執筆した中編小説『残り香を秘めた京都』を発表。2014年から2015年までタイの文芸誌『Writer Magazine』およびタイ国文化省現代芸術文化局発行の文芸誌『Prakod』の編集長を務める。

Photo :
Kaan Suchanin

アーティストメッセージ

いま、タイの現代小説家ウティット・ヘームムーン氏の最新作を演劇化するプロジェクトを進行させています。一人の芸術家の性愛遍歴が、タイの波乱に満ちた現代史と重ね合わせられつつ綴られる、という内容を持つこの小説では、国家というコンセプトと、身体というコンセプトとが重ね合わされています。とても挑発的です。

なぜタイのことが描かれている小説を演劇化しようとしているのかといえば、それがタイ人でない私たちにも他人ごとではない、大きな射程を持った問題を提起し得ると思うからです。それは、設定されている境界についてです。国家の境界やセクシャリティの境界など、私たちは様々な境界を設定して生きています。そしてそのことが様々な問題をもたらしています。

なので私はこの演劇を、舞台と客席の境界についても扱うために、それが強固な場所である劇場ではない、美術館のような空間で上演しようと考えています。

—岡田利規

このプロジェクトは、芸術の境界を拡張する機会と可能性に満ちている。文芸を出発し、視覚芸術に向かった作品が、これから演劇になろうとしているのだ。なによりも大切なのは、これが岡田利規という演劇作家とのコラボレーションであるということだ。芸術の境界を拡張しながらも、2つの国、言語、文化において芸術に携わる人々をつなぐことができる。そこに、互いの理解と融合が生まれる。

この物語は、とある国についての物語だ（その国の姿は、人間の身体に例えられている）。その国は権力と統治者が持つ欲望による弾圧を受けて、命令され、奇妙な姿勢に歪められている。その欲望は個人の意志を抑圧し、それに取って代わってしまう。そんな、奇怪で不合理にすら見える姿勢をとらされている国の物語なのだ。異なる人種の、異なる言語と文化を持った国から来た芸術家が、その国をどう見据え、どのような作品を創造するのか、とても興味深い。

—ウティット・ヘームムーン

予告

岡田利規 × ウティット・ヘームムーン 新作コラボレーション・プロジェクト（2018年初演予定）

原作：ウティット・ヘームムーン

脚本・演出：岡田利規

主催：国際交流基金アジアセンター、株式会社 precog、一般社団法人チェルフィッチュ

助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、公益財団法人セゾン文化財団